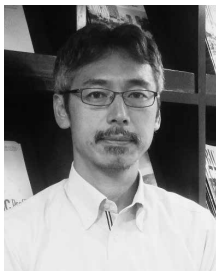
インド人の生活――デリー近郊の5つの家庭を訪問



大矢　伸
国際協力銀行　ニューデリー駐在員事務所
首席駐在員

インド人の生活

経済成長率、財政赤字、経常収支といったマクロ指標や、土地収用法、税制改革といった政策課題も重要だが、日本企業のビジネスチャンスを考えるうえで、実際の生活を通じてみられるインドの人々を知ることは有益であろう。そのような問題意識のもと、今回はニューデリーおよびその近郊に住む５つのインド人家庭を訪問した。それぞれが教育や宗教などどういうバックグラウンドをもち、どういう家に住み、いくら稼いで、何にお金を使い、何をもち、何が欲しいか、を質問してみた。早速それぞれの家庭をのぞいてみよう。

高学歴の元共働き公務員、リンジャさん一家

1950年生まれのリンジャさんは64歳の男性。小柄だがっしりした体格。北東部のメガラヤ州シロンの出身で、インド人というよりも東南アジアでよくみる顔つきだ。メガラヤ州は80%がクリスチャンで、リンジャさんもクリスチャン。大学院で数学を修め、74年にインド国家公務員上級職（IAS）に合格、公務員としての道を歩む。奥様のビンタナさんは、４歳下の60歳。同じく北東部のアッサム州出身のヒンドゥー教徒。大学院で歴史を修め、アッサム州の公務員となるが、その後、91年にIASに合格した。

２人は同じアッサム州で働いていたときに知り合い、宗教の違いを乗り越えて、インドでは珍しく恋愛結婚し、２人の子どもに恵まれた。長男は今28歳で、エンジニアの学士と経営学の修士をもつ。娘は25歳で経営学の修士課程に在籍中。

リンジャさんが24歳でIASとして働き始めたときの月収は700ルピー（当時のレートで約２万円）。リンジャさんは2010年に公務員を60歳で定年退職し、その後１年間、大手コンサル会社で月収10万ルピー（約19万円）で働き、引退。現在は悠々自適。今は、夫婦それぞれが６万ルピー（約11万4000円）の年金を受給するとともに、故郷のメガラヤ州シロンの実家を貸すことで月２万5000ルピー（約４万8000円）の不動産収入がある。

リンジャさん一家は現在、デリー南東のバサント・エンクレイブに住む。家は、寝室３つ、リビングに加えて、お手伝いさん部屋があり、２人のお手伝いさんが住み込みで働く。家には、３台のテレビ、４台のエアコン（日立２台、LG２台）、加えて、冷蔵庫（LG）、電子レンジ、乗用車（ヒュンダイ）、電気掃除機やルームヒーターなどがある。今買いたいものがあるか尋ねたところ、賃貸に出している故郷シロンの家を修繕して物件の価値を上げたい、加えて、現在ヒュンダイの小型自動車だがセダンの新車を買いたい、とのことだった。

退職後も、ぜいたくは避けているが消費のパターンは現役時代から特に変えていないとのこと。日々の雑貨や野菜は、インドでキラナと呼ばれている近くの小

規模店舗で購入しているが、豚肉や魚は３～４km離れた店に買いに行くことが多いとのこと。海外は、リンジャさんは仕事で３回行ったことがあるが、休暇での海外旅行はしたことがない。

なお、リンジャさんの父親は医者。奥様のビンタナさんの父親は州の役人ということで、いずれも高学歴であり、自分たちの教育にもお金と注意を注いでくれた、自分たちも子どもの教育については何より大切と考えて投資をした、とのこと。高い教育により、豊かで安定した生活が次世代に引き継がれているように感じられた。

夢は娘、母子家庭のサントシュさん

サントシュ・ラオさんは、38歳の女性。７歳の一人娘と２人でデリーの南のスラムに住む。父親はインド北部のウッタルプラデシュ州、母親はマハラシュトラ州出身だが、両親はサントシュさんが小さいころに離婚、銀行のキャッシャーをしていた母方の叔父のもとで育てられた。兄弟は兄と姉がいる。

サントシュさんは15歳で働き始める。はじめの月給は500ルピー（当時のレートで約2500円）。その後NGOで働きながら勉強し、月に1000ルピー程度の収入を得たが、徐々に昇給し、2007年に結婚して仕事を辞めるときには月収3000ルピーをもらっていた。07年の結婚は、インドでは一般的な“親同士が決めた結婚（アレンジド・マリッジ）”であった。夫は小さな小売店主だったが結婚後間もなく感電事故で死亡。サントシュさんは夫の親族の支援は受けられず、娘とともに、また叔父のもとに身を寄せることとなった。同時に、通いのお手伝いさんとして仕事を始め、07年の月3500ルピーから始めて徐々に月給が上がり、14年には掃除・洗濯に加えて、覚えた料理も行うことで月給は１万ルピー（約１万9000円）まで増えた。また、政府の寡婦支援制度の恩恵も受けているが、本来毎月4500ルピーをもらえるところが、実際の支給は月3000ルピーにとどまるとともに、実際の支給のタイミングも数カ月遅れることもよくあるとのことであった。

サントシュさんは今は娘と２人でスラムの中のワンルームハウスに住むが、ブリキ板を載せただけの屋根で、強い雨が降ると室内にも雨が入り込む。部屋は小さく、中にトイレはなく、外の共用トイレで用を足す。現在家には、テレビ、冷蔵庫、ガスコンロくらいしかない。収入の多くは、娘の教育費、電気代、食費に消え、貯金はゼロ。収入が増えたら買いたいものは何かという質問への答えは「とにかく娘によい教育を受けさせてよい結婚をしてもらいたい。それがすべて。ほかに何もいらない」

公認会計士グプタさん一家

ディネッシュ・グプタさんは52歳の男性。会計事務所のパートナーで、デリーから車で１時間半のウッタルプラデシュ州のガージアバードに住んでいる。ディネッシュさんは、1981年に大学の商学部を卒業。電機会社やプラスチック加工会社などいくつかの会社に勤めた後に、仲間と会計事務所を設立した。現在は会計事務所から月５万ルピー（約９万5000円）の収入を得る。奥様のニーラムさんは、専業主婦で家事や子どもの世話を担当した。グプタ家は２人の娘をもつ。長女は現在26歳。４年ほど前に結婚して３歳の息子がいる。グプタ夫妻にとっては初孫。結婚相手はグルガオンでゴム製造会社を経営。次女は現在経営大学院で勉強中。

ディネッシュさんは1998年に４階建ての中古ビルを購入。１階を店に賃貸し、２階は住居用として賃貸し、３階、４階を自らの住居スペースとして家族３人で暮らしている。ビルを購入した際のホームローン返済が毎月１万ルピーかかるが、１階、２階部分の賃貸収入が月２万3000ルピーある。物件購入時には周りは何も

ないジャングルで物件価格が安かったので、大変よい時期に投資をしたと満足している。住居スペースには、寝室２つ、リビング、キッチン、トイレ２つ、４階に小部屋がある。

グプタ家は2004年に小型車のマルチ800を購入。10年にはハッチバックのシボレー・スパークに買い替えた。ほかに、Koryo（台湾）のLCDテレビ、サムソンの冷蔵庫、LGの電子レンジ、サムソンの洗濯機、ニコンのカメラをもっている。できればテレビをソニーかサムソンのLEDに買い替えたいとのこと。支出で大きいのは、ホームローンの返済に加え、今年末までだがオートローンの返済、燃料費が月5000ルピー、食費が月１万ルピー、教育関連で月7000ルピー程度。収入の15％程度は何とか貯金に回している由。なお食料はモールなどではなく、近場のキラナで購入しているとのことだ。

単身赴任、アミットさん

アミット・スリバスタバさんは44歳の男性。現在、商業銀行のグルガオン支店に勤めている。もともとウッタルプラデシュ州のバラナシ出身で、バラナシ・ヒンドゥー大学で数学やコンピューターを学び大学院まで行った。1993年から働き始め、最初は大手生命保険会社に入ったが、数カ月で今の銀行に転職した。銀行では、ムンバイ（マハラシュトラ州）、コラプール（マハラシュトラ州）、ガージアバード（ウッタルプラデシュ州）、デリー、グルガオン（ハリアナ州）、ラクナウ（ウッタルプラデシュ州）、ハイデラバード（テランガナ州）など転勤が多かった。94年の銀行からの最初の給与は月4900ルピー（当時のレートで約１万6000円）。21年後の現在は、25倍の月12万5000ルピー（約24万円）となった。

1998年に結婚。奥様はウッタルプラデシュ州のラクナウ出身で、ヒンディー（国文学）の博士号をもつ。子どもは長男が１人で現在10学年（15歳）。受験勉強のために奥様と長男はラクナウに借りた家に住んでおり、アミットさんは単身赴任。ラクナウでの家賃の支払いは月１万2000ルピーだが、そこにはソニーのテレビ、サムソンの冷蔵庫、ボルタス（印）のエアコン２台、LGの電子レンジ、ソニーのプレステ２、2001年にオートローンを借りて20万ルピーで購入した小型自動車マルチ800、ヒーローホンダのバイクなどがある。車は買い替えたいと思っていて、日産マイクラかホンダ・アメイズに関心がある。長男には10学年の共通テストが終了後、スクーターを買う約束をした。ホンダのアクティバかTVSのジュピターを考えている、とのこと。

アミットさんが単身で住むのはグルガオンの寝室が２つあるアパートで、月１万8000ルピーの家賃と同800ルピーの共益費は勤務先の銀行が負担してくれている。LGのテレビと冷蔵庫、サムソンの洗濯機、LGのエアコン、フィリップスのミュージックシステムがある。また、通勤や業務用に、銀行がマルチスズキ・スイフトを貸与してくれている。なお、健康保険は銀行が入ってくれており、本人分は100％カバー、家族分は75％カバーというプラン。生命保険は自分を対象に自ら入っているとのこと。

アミットさんは2014年にマッディヤプラデシュ州のボパールに300万ルピー（約570万円）でマンションを購入。そのローンの支払いが毎月１万6000ルピーある。現在、賃貸収入は7000ルピー。ボパールは発展が見込まれ、賃貸収入は今後増大すると考えている由。

アミットさんは、子どもにはしっかり勉強してもらい、IIT（インド工科大学）に入り、最終的には国家公務員上級職（IAS）に合格してもらいたいという希望をもっている。

クリスチャン、ジョージさん一家

ジョセフ・ジョージさんは33歳。ケララ州出身でローマンカトリック。ケララ州では、クリスチャンの比率が20％と全国平均よりはるかに高い。デリーにもケララ出身者は多く、ケララ系のローマカトリック教会も10程度ある。父親は銀行員、母親は専業主婦で、姉がいて今は公認会計士をしている。

ジョージさんはケララ州の大学で商業を学び、大学院で応用経済学の修士をとった。デリーの大学の博士課程に入ったが修了はせず、2009年よりラジャスタン州のジャイプールの研究所で研究助手として仕事を始めた。最初の給与は月１万7500ルピー（約３万3000円）だった。５年後の14年に同研究所を辞めたが、そのと

きの給与は月５万8000ルピー（約11万円）。現在は国連機関のニューデリーのオフィスに勤めており、月８万ルピー（約15万円）をもらっている。

ジョージさんは、2012年にリティさんと結婚。彼女も同じローマンカトリックで、親の決めた“アレンジド・マリッジ”。リティさんは大学院でファイナンスを学び商業銀行で働いていたが、2013年より無給の５年間の休暇を取得して子どもの世話を行っている。子どもは男の子で現在１歳半。リティさんは、５年の休暇期間の終了後は銀行に復帰することを考えている。

ジョージさん一家は、デリーの南のバサントクンジで寝室２つ、リビング、ダイニング、キッチンのアパートを借りていて、家賃は月２万5000ルピー（約４万8000円）。家には、サムソンのテレビ、ビデオコン（印）の冷蔵庫、ボルタス（印）のエアコンがあり、車はマルチスズキ・アルト。

買い物は通常はキラナで行うが、服はモールで買う。また、ときどきオンラインショッピングも使う。前回はバジャジ（印）の電気ポットをオンラインで買った。電気ポットなど家で使うものは奥様のリティさんの意向で決めることが多いが、車はジョージさんの意向で買う。なお、耐久消費財を買うときに重視するのは、価格よりも耐久性。外食は月に１回程度で、その際には5000ルピー程度を使うとのこと。

大きな支出は、家賃が月２万5000ルピー（約４万8000円）のほか、ローン返済が月１万3000ルピー（約２万5000円）、お手伝いさんへの支払いが月5000ルピー（約9500円）、自動車の燃料費が月3000ルピー（約5700円）、外食費が月5000ルピー（約9500円）。健康保険はそれぞれの勤務先でも入っているが、個人でも年6000ルピー（約１万1000円）を払って追加で加入している。別途、生命保険にも入っている。

ジョージさんは、自分の学んだ経済学を生かす場所が故郷のケララには少ないためにデリーで生活しているが、できれば故郷に戻って生活したいと考えている。また家族の規模については、奥さんは子どもがもう一人いてもよいと考えているが、ジョージさんは教育費など経済的な理由もあり、今のままでもよいのではと感じている。

多様性と共通性

以上が各家庭を訪問した結果である。宗教・生活水準など実に多様で各家庭に違いがあるが、同時に、多くの共通点もある。５例のみで一般化はできないが、若干の解釈も交えていくつか列記すると以下のとおり。

- 結婚はアレンジド・マリッジが多く恋愛結婚は少ない。
- 日常雑貨の買い物については、キラナへの支持は今でも高い。ただ、若い人の間ではオンラインショッピングが広がってきている。
- 教育熱心。結婚や就職など社会階層を上がり豊かになるために子弟の教育を重視し、支出面でも教育の優先度は高い。
- 家電分野は韓国企業の存在が大きく、地場企業も一定の存在感がある。
- 投資先として不動産に一定の人気あり。余資運用を超えて、借入のうえで不動産を購入して賃貸するケースもある。

なお、今回の訪問はデリーおよびその近辺であり、農村の生活をカバーしていない点は留意を要する。農村においては、収入が異なるのみならず、耐久消費財の世帯保有率も概して低い。たとえば、2011年度の調査では自動車の世帯保有率は都市が８％であるのに対して地方は２％、自動二輪車についても都市が37.8％に対して地方は18.4％、冷蔵庫に至っては都市の43.8％に対して地方は9.4％という開きがある[注]。最後に、われわれの訪問を快く受け入れ、ストレートな質問に率直に回答してくれた５つのご家族に感謝致したい。

注：NSS Report No. 558:Household Consumption of Various Goods and Services in India, 2011-2012

※筆者略歴：1991年日本輸出入銀行入行、98～2001年世界銀行、05～06年日本カーボンファイナンスで南アジアを担当、06～08年国際協力銀行東南アジア地域担当課長、08～11年CEO秘書、11年～石油・天然ガスセクター担当課長、12年５月より現職。休日はインド国内旅行とサッカーを楽しむ。東北大学法学部卒、ボストン大学大学院法学修士。